【テーマ】：「地域と生活そして人間関係の幅広い知識を基盤にした新科目」

【カテゴリー】：①教育課程（主に基礎分野科目）

【学校概要】学校名；板橋中央看護専門学校／課程；３年課程／所在地；東京都板橋区小豆沢 2-6-4
１学年定員数；80 名／就業年限；３年

【内　容】　①看護の対象が生活する地域の人を理解する科目：「地域と社会」「生活学」
②自己の心身の健康に関心を持ち自己管理する方法を理解する科目：「健康科学」
③人間関係に必要とされるマインドと論理的な表現技法を学ぶ科目：「コミュニケーション論」「ディベート」
④看護師としての将来のキャリアを考える科目：「看護師としてのキャリア形成」
⑤「地域と社会」「生活学」「看護学概論」の履修を踏まえて看護の視点での支援を考える科目：「地域・在宅看護論；地域における看護活動」

＜看護師としてのキャリア形成＞
キャリアガイダンスを受け就職活動を主体的に実施し自己のキャリア形成について考える

＜地域における看護活動＞
地域で生活している対象の健康状態や生活状況、環境を踏まえて健康を維持し、安全な生活への支援について考える

＜ディベート＞
論理的に自分の意図を正確に伝える技法をディベートの演習を繰り返し行うことで身に着ける

板橋中央看護専門学校
教育理念【人類愛】

校訓
凡事徹底

季節の行事（七夕）

冠婚葬祭（お焼香マナー）

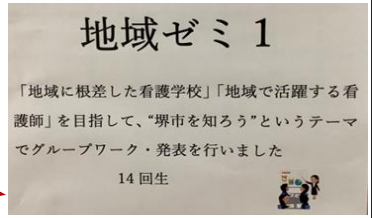
＜生活学＞
人々の生活を支えている「衣・食・住」の歴史から見た生活の変化や季節の行事の所以、葬祭の基本的マナー、日本の伝統文化の体験から対象者を理解する土台をつくる

＜地域と社会＞
人間らしさを育んできた「文化・社会」の基本と、板橋区の歴史と特徴そして未来構想を理解した上で、板橋区の「まちあるき」体験し、学びを共有する

＜健康科学＞
自己の健康診断結果を把握し自己コントロールするための健康生活を支える運動、嗜好品、常備薬、睡眠、メンタルヘルスを理解する。

＜コミュニケーション論＞
コミュニケーション方法の基本やマインドフルネス、適切な文（SNS や手紙）ユーモアスキルを演習を通して学ぶ。

1）タテにもヨコにもナナメにも
「仲の良さ と 相談のしやすさ が自慢です！」
2）③～協働学習活性法～



3)【 学校概要 】
一般社団法人 堺市医師会 **堺看護専門学校**
大阪府堺市北区新金岡町
看護第1学科，1学年40名定員，就業年限3年

事前学習０（ゼロ）

＊入学前から準備をしています

オープンキャンパスでは、在校生がお出迎え，

学校生活のアレコレにお応えします

＊新入生オリエンテーション

校内案内を先輩が行います

初めまして
ドキ
ドキ…

＊校外学習

3学年タテ割りのチームで、学校近くの緑地公園へ

散策しながら学校周辺の環境を知りました。
また先輩に、勉強のこと・実習のこと・恋バナなど、色々な話が聞け仲良くなりました。
この後も困った時に相談しやすくなりました。
これからも頼りにしています

事前学習（個人ワーク）

「堺市について調べよう」歴史・特徴・名物・有名人

その他についてワークシートを作成します

グループワーク①

個人ワークをグループ内で発表しあい、注目点が

それぞれ違うことを知ります

ジグゾーワーク

基グループからテーマ別に飛び出し、

同じテーマでグループになります。

互いに情報交換し、情報量を増やします

グループワーク②

基グループに戻ります。他のグループには

「ネタバレ禁」で、担当する区についてまとめていきます。

ジグゾーワークでたっぷりと情報を取っているので、

まとめる作業も活発にすすみます

発表①

グループワークの発表です。
クイズありボケとツッコミあり、入学して間もないことを感じさせない雰囲気です。

発表②

グループワークの成果物を廊下に掲示します。

先輩と教員から「イイね！」コメント付箋をつけてもらいます。この「イイねポイント」も評価に加算されます

Gさんへ「ここがイイね！」

先輩・教員が、この付箋にコメントを書いて貼っていきます。早くから関係性を築くことが協働学習活性化のポイントです

テーマ　：『　臨床判断能力向上へ向けた「解剖生理学」講義の取り組み　』

カテゴリー：②教育内容　③教育方法

1. 学校概要：学校名　医療法人茜会　よしみず病院附属看護学院　3 年課程

所在地；山口県下関市大坪本町 44-20、　1 学年定員数；40 名　就業年限；3 年

2. 内容　：　新カリキュラムの運営に関し、看護基礎能力強化に向けて、専門基礎分野「解剖生理学」の科目を看護実践と結びつけて学べるよう内容の改善を図った。

現行の「解剖生理学」の講義を依頼していた医師から、専任教員が教授することにした。

1）専任教員の臨床経験からの専門性を活かし、担当を配分した。

2）教授方法

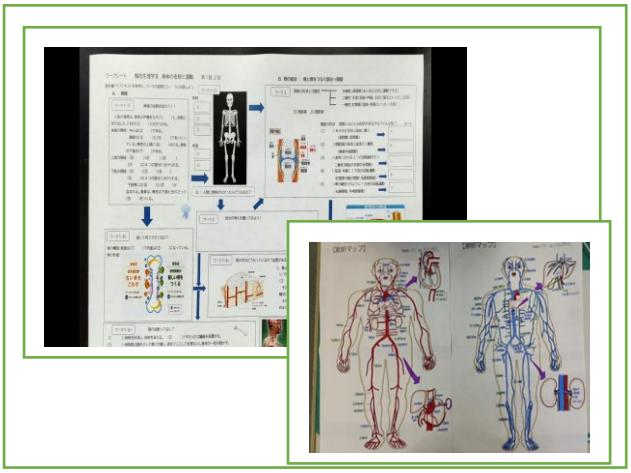
初学者に分かりやすく、先ずは「解剖生理学」を好きになってもらうことから始めている。そのために教員は、教材準備を試行錯誤しながら行い、興味関心を引き出す方法を思案している。延いては、科学的根拠に基づいた臨床判断能力を養う方向づけへと導き、看護に活かせる知識体系を整理することで、実践に役立てようとの思いで取り組んでいる。

3）教授方法の工夫

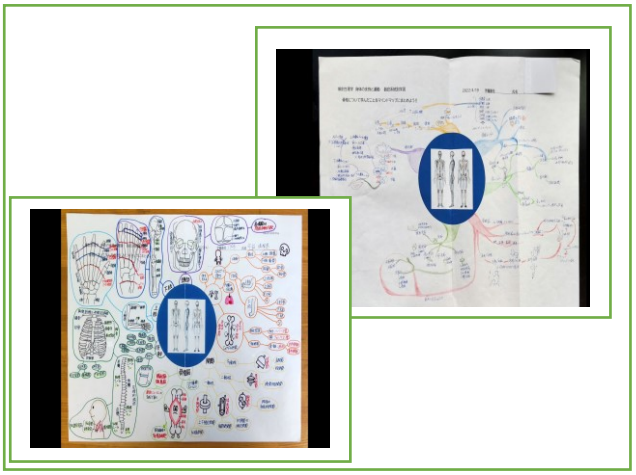
(1)　身体の知識を看護実践に活かすような構成；ワークシートの作成　図 1

(2)　各単元がアセスメントにつながるような枠組み；マインドマップの作成　図 2

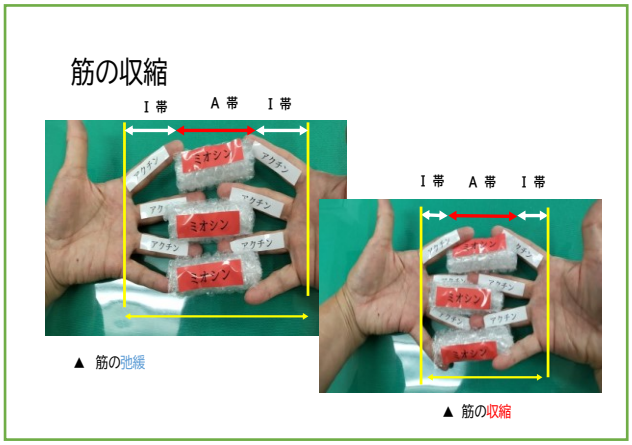
(3)　学生が興味関心を示し、主体的に学修に臨めるようになる；展示物の作成　図 3



▲図 1「身体の支持と運動」「血液の循環とその働き」ワークシート



▲図 2「身体の支持と運動」マインドマップ



▲　図 3　展示物の工夫　▲

3. 実施した教員の感想：教員同士で教材を共有し、学生がいかに興味を持ってくれるか試行錯誤しながら教材準備をしている。学生が、解剖生理学で修得した知識を看護実践に活かされるか、今後の教育効果を期待している。

テーマ「小児看護学実習・小学校実習での保健指導」
カテゴリー：②教育内容（実習）
1.学校概要：学校名：岩手県立宮古高等看護学院
所在地：岩手県宮古市崎鍬ケ崎 4-1-13
課程名：３年課程　１学年定員数：３２名　就業年限：3 年
2.内容

私たちの学校の小児看護学実習は、病院、保育所、認定こども園、支援学校、小学校の５カ所の施設で行われている。それぞれの施設で、乳幼児期・学童期の子どもや障がいを持つ子どもとふれあいながら、成長発達の特徴を学び、地域で生活する子どもたちの現状を知る機会となっている。

少子化に伴い、病院に入院する患児が減少していることから、小児看護学実習を病院以外の乳児園や保育所で行う看護師養成所もあるが、小学校で実習を行う学校は珍しいのではないかと思う。

小学校実習では、１グループ３名の学生が１年生から６年生のクラスに入り、児童と共に授業を受ける。休み時間には児童と一緒に遊び、各教室で多くの児童とかかわることで学童期の子どもの成長発達を学ぶ。保健室で養護教諭の児童への対応も見学し、学童期の健康について考える機会となっている。

最終日には、１クラス（学年）の児童を対象に、保健指導を行っている。学生は実習までに指導計画を立案、保健指導に活用する教材を作成し、リハーサルを重ね本番に臨む。児童の前に立つ学生は最初緊張しているものの、子供たちの反応に笑顔になり、張り切って指導を行っている。

実習後の学生へのアンケートで保健指導の実践について感想を聞くと、「思っていたより積極的に児童が参加してくれて嬉しかった、楽しかった、達成感を感じた」という声が多くあった。また、「楽しく指導できたが、もう少しわかりやすく工夫すればよかった」「根拠も伝わる内容だとよかった」と自分たちの課題についての感想もあった。

子どもたちと多く触れ合う中で、学生それぞれに達成感があり、充実した実習となっていると感じる。また、現代の子どもの健康問題と関連する子どもを取り巻く環境や社会問題について考える機会となっている。

小学校実習は、20年以上前から行われ、現在は、私たちの学校のある宮古市内７か所の小学校に実習を受け入れていただいている。コロナ禍となってからも、感染対策を行いながら継続している。

＜昨年度の保健指導テーマ＞

生活リズムについて	睡眠の大切さ	歯の大切さ

＜実際の保健指導の場面＞

＜終わってほっとした学生＞

テーマ「改正カリキュラムに伴う協同学習のとりくみ」

カテゴリー：③教育方法（授業・演習）

1　学校概要：学校名：華頂看護専門学校　所在地：滋賀県大萱 7 丁目 7-2　課程名：3 年課程

1 学年定員数：30 名　就業年限：3 年

2　内容：

本校は開校から 10 年を経て、異学年の交流を通じて学ぶヒドゥンカリキュラムを展開していた。つまり、上級生が下級生をコーチングする看護技術演習や、各領域の看護学の演習発表会、実習報告会などである。下級生にとっては身近な接近目標となり、演習参加後のリフレクションペーパーには、ほとんどの学生が上級生への敬意と尊敬の念を記載し、自らの目標を重ねていた。また、上級生の発表会聴講後は、自分が今するべき学習を疎かにせず取り組むと決意を新たにする下級生も多かった。主体的な学習の動機づけにおいて接近目標の示し方として極めて効果的であり、この学び合いの機会を意図的に設定してきた。今回のカリキュラム改正に伴い 1 年次と 2 年次に「協同学習」の授業科目とし、学び合いの機会を時間割に組み込んだ。その内容と実施状況について報告する。

≪看護技術演習≫

レイヴとウェンガーが提唱する「正統的周辺参加」で上級生が下級生を看護技術指導する形式を継続している。4 月のベッドメイキング指導は、基本動作や正確性のみならず協調性も学び下級生の主体的な学びにつながっている。また、放課後には自主的にゼミ単位でバイタルサイン測定や日常生活援助の技術も、関係性が積極的な練習につながっている。

≪各看護学の看護過程発表会、実習報告会の聴講≫

この発表会は必ず 3 つのステップで展開する。

Ⅰ　準備性：必ず前もって資料を読みこむ時間を各学年の時間割で確保している。学生はその時間を活用し、質問事項を明確にして発表会に臨んでいる。本校での看護過程の履修は 1 年次後期と位置づけている。そのため、1 年生には事例紹介や看護過程の考え方、見方などを教員が指導したうえで、質問事項を検討するように指導している。また、上級生は自らリハーサルを繰り返し、質疑応答の準備をして臨んでいる。当日までに教員も 1 回はリハーサルに参加し、質の向上の為、アドバイスをおこなう。

Ⅱ　発表会：発表会の運営はすべて学生が実施している。上級生一人ひとりは毅然とした態度で、全員が制限時間内に発表している。下級生も食い入るように上級生の発表を聴講している。質疑応答では、全学年から質問がある。1 年生も上級生が質問する様子を見て、自己紹介してから質問するスタイルを模倣している。また、教員は、発表者に対する質問のみならず、上級生や下級生への発問も折りまぜ、発表会に協同参加して自覚を促している。臨地実習での経験などを織り交ぜて回答する上級生もおり、さまざまな看護の視点や気づきが共有される機会となっている。

Ⅲ　リフレクション：3 つの視点「看護過程（資料）」「プレゼンテーション」「発表会の運営」で学びを記載させている。看護過程では、解剖生理や病態理解の重要性、具体的な看護計画立案の必要性を学んでいた。「同じ疾患の患者でも看護は異なり、個別性に合わせた援助をするのが看護だと理解できた」と多くの 1 年生が記載していた。上級生のプレゼンテーションは、実習報告会における臨地実習指導者の評価も高い。そのため、話すスピードなどの態度面、質疑応答でも速やかに対応する点に尊敬の記載が多い。また、看護技術も含む発表会では、特に 1 年生は臨地実習の経験がなくイメージがつきにくい。そのため、3 年生がおこなう患者へのロールプレイングは「アイコンタクトがとれている」「傾聴できている」「看護師のようだ」というプラスのコメントが多い。一方、中間の学年である 2 年生の発表会では「質疑応答が合っていなかった」などのマイナスのコメントも散見し、実際の発表内容との妥当性も見られる。さらに、発表会の運営では司会が円滑に会の進行を進めるなどそれぞれの役割を適切に果たす必要性を学んでいた。

≪実習報告会の発表≫

1 年生は 6 月に地域・在宅看護論実習Ⅰを終え、その学びを各自が 2,500 字以上の論文にまとめた。初めての発表会となるため、上級生から発表会の運営方法について指導を受けた。また、発表時のパワーポイントのスタイルや図表の使い方などについても、ゼミ単位で直接指導を受けながら作成した。そのため、例年よりも早くパワーポイントが作成でき、発表原稿の完成に至った。

テーマ：学校自慢～特色のある学校の取り組み～
カテゴリー：③教育方法

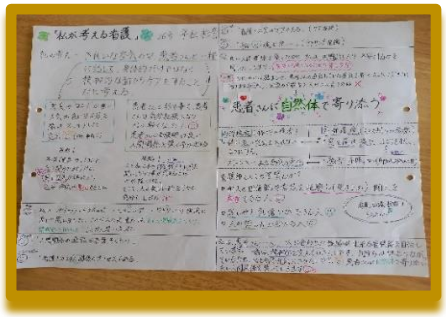
1. 学校概要：学校名：唐津看護専門学校　　所在地：佐賀県唐津市栄町 2588 番 8
課程名：看護高等課程　　1 学年定員数：40 名　　修業年限：2 年

2. 内容

・2022 年 4 月より、看護学校カリキュラムが改正され、准看護師にも「看護実践能力」が求められるようになった。当校では、学生が「能動的に学び、自己研鑽する態度を身につけることが出来るよう」、４年前よりグループ・ディスカッション、グループワークを中心とするアクティブ・ラーニングを促進している。その取り組みを報告する。

(1) 学生が自ら、意欲的に取り組んで行くために

① 看護概論の授業では、「私の考える看護」を調べ学習し、まとめ、小グループで発表。
自分たちの看護観について意見交換を行いました。



② 保健医療福祉の仕組みの授業でも、福祉制度の調べ学習を行った事を元に、実際に授産施設やグループホームに見学に行き、学んだ事をグループで共有後、発表を行います。

3. まとめ

その他、解剖生理学や基礎看護技術などの授業で、事前学習の上、グループワークやディスカッション形式を取り入れている。

学生からは、

- グループワークで色んな意見をもらいながらできるので良い。
- 正直、予習、講義中までは理解できていない部分が多かったが、復習をしていて、先生の言っている事のつながりがみえてきて分かってきた。
- グループ活動では、皆で話しをし、お互いの意見交換が出来たことで視野が広がり相手への興味、関心が深まった。

との意見も聞かれている。学習効果に関しては、経時的に見ていく必要があるが、学生が授業に活発に参加できている現状である。

１）テーマ「多職種連携実習を実施して」
２）カテゴリー：③教育方法
３）学校概要　学校名：奈良看護大学校
所在地：奈良県生駒郡三郷町三室 1-14-1
課程名：3 年課程
1 学年定数：80 名
修業年限：4 年

４）内容

医療を取り巻く環境の変化は、カリキュラムの改定など学校教育へも大きな影響を与えている。少子化・生産年齢人口の減少問題は、タスクシフト（シェア)、多様性の理解などの重要性を含んでおり、チーム医療のあり方を再考する機会となった。本校は看護学科単科のため、多職種連携の実習という形態をとっていなかったが、チーム医療(多職種連携)実習の必要性を考え、多くの職種の実習を受け入れている奈良県総合医療センターと連携し、多職種合同の実習を開始した。

1 回目：5 月 18 日、理学療法士学生（４年生）3 名、本校看護学生（3 年生）6 名で、模擬患者に対するそれぞれのケアプランを立案し発表した。その結果、理学療法士学生は日常生活の回復、「夢を諦めない」という想いがあったが、看護学生は病気のケアに集中するという傾向にあった。

２回目：６月２９日、薬剤師学生（５年生）６名、理学療法士学生（４年生）４名、本校看護学生（３年生）７名で、「多職種との考え方の違い」にこだわり、実習を行った。①それぞれの職種の学生のケアプランの発表後、②「自分達とは違う、多職種の考え方」について発表し、③最後に混合チームでカンファレンスを行い、ケアプランの再立案を行った。混合チームでのケアプランは多職種の大切にしている想いをそれぞれが理解したケアプランであった。例えば、薬剤師学生のみのケアプランは「内服薬の自己管理」であったが、混合チームでのケアプランは、治療薬剤の副作用を考慮したリハビリプログラムで、長期的には「社会復帰」という目標へと変化していた。本校看護学生の学びとして、看護ケアの狭い視野から他専門家（薬剤･理学療法）の視点をとりいれ、社会復帰、退院後の患者さんのことも考える様になっていた。

まだ、2 回の実習ではあるが、学生の気づきや学びの拡大に教職員も刺激を受けている。今後も学校・臨床との連携を保ち、対象を病院の患者さんとしてだけでなく、社会で生活する生活者として捉え、複眼的に支援する学びを深めていきたい。

「地域へはばたく看護教育」

奈良県医師会看護専門学校　教員一同

今井まちなみ交流センター「華蔓」

本校が位置する奈良県橿原市は、日本最初の本格的都城の藤原京跡、江戸時代の面影を残す今井町、橿原神宮など神話と伝説が交差する神社仏閣がある。令和４年現在で創立 67 年を迎え、卒業生は 4000 人を超える名実ともに歴史ある学校（1 学年 40 名 3 年課程）である。

今回の新カリキュラム編成は３年前から準備を進めてきた。科目名こそ、旧カリキュラムと同じ名前の科目はあるものの、新カリキュラムにおいて同じ内容の科目は１つもない。125 回の教員会議や勉強会を経て意見交換し、時に多忙な職務の間に行われる会議においては険悪な雰囲気となりつつ、私たちが「育てたい学生像」をかたちとしたこの新カリキュラムには、全教員の看護教育と学生への熱い想いが込められていると自負している。

まず、カリキュラム編成においては目標分析法によりスコープ＆シークエンスを行い、教育内容を抽出した。１年次に学ぶ基礎分野においては、年々、生活体験が乏しい世代の学生が多く入学してくるという傾向から、食・住の生活文化に関心を持ち、また専門職業人として、社会人として人生をどのように生きるかを考える力を育成するため、「生活科学」と「キャリア学習」の２科目を新設した。この科目については地域・在宅看護論と対象を生活者ととらえるねらいもリンクさせた。教授方法は演習や体験学習がほとんどであり、卒業生の講話、宿泊研修、茶道、着付け、地域活動、ティベート、調理、洗濯やアイロン、掃除の方法まで様々な指導内容を取り入れた。

専門基礎分野においては臨床判断方法論と治療と臨床検査の２つを新設した。これは解剖生理学や病態生理学、臨床薬理学の知識を活用し、看護として実践するための臨床判断能力の向上を目指し、演習を中心とした科目とした。さらに、病態生理学は主として外部講師（医師）に依頼しているが、最後の講義は教員が受け持ち、解剖を看護へつなげる内容の講義を設定した。

専門分野においては地域・在宅看護論Ⅰ～Ⅴを新設した。地域・在宅看護論（以下　地・在論と略す）Ⅰ＜奈良の暮らし＞では、奈良の地域特性を知り、地域が人に与える影響について、フィールドワークを通して学習する。加えて地域を知る一環として市長による授業も予定している。地・在論Ⅱ＜奈良の保健医療福祉＞では、現場で活躍する専門職が、事業や職務の実際についてオムニバスで講義を行う。この科目は奈良県医師役員の「奈良県医師会の活動」の講義から始まり、行政職員による「地域連携化の役割」等、学生が苦手とする福祉の分野をより身近にわかりやすく学習できるよう工夫した。地・在論Ⅲ＜ケアマネジメントと多職種連携＞では、居宅介護支援計画書を学生が作成するといった演習や、IPE を目的とした歯科衛生士看護専門学校と、協働演習を行う予定である。地・在論Ⅳ＜地域・在宅看護技術＞では、日常生活における援助の方法について学ぶ内容とし、地・在論Ⅴ＜看護過程と地域・在宅看護の実際＞では、地域で展開する看護の実際について、それぞれの専門職がオムニバスに講義を行う。講師は施設の看護師、小児、精神、高齢者、母子に精通した訪問看護師や保健師による看護の実際や、地域で展開される認知症対策など、全領域にわたる様々な健康レベルや発達課題を網羅した教育内容とした。

講義と平行し、地域包括ケアシステムの中で活躍できる看護師の育成を目指し、まず地域の暮らしや人々を知る目的で、１年次からこども園や福祉センターでの地・在論実習Ⅰを組んだ。さらに地・在論実習Ⅰのすぐあとに、基礎看護学実習①を予定しており、「病院を知る」といったねらいをとリンクさせた。３年次において地・在論実習Ⅱでは、健康の保持増進・疾病の予防について学ぶ実習と位置づけ、保健センター、小学校での実習、産業・成人保健を学ぶための健診センター実習、障害があってもその人らしい健康を守る視点を育てるため障がい者施設での実習を取り入れた。地・在論実習Ⅲでは、地域で療養している対象の看護について学ぶために、訪問看護ステーションや高齢者施設実習、外来看護を意識し、クリニック外来実習を新たに追加した。実際に看護過程の展開ができる実習は訪問看護ステーション実習だけで、あとは２日ずつのオムニバス実習であるが、体験を重視し、レポートを中心としたルーブリックで評価する。

しかし、地・在論実習においては、小学校やクリニック、健診センターなど、新たに追加した実習場所が多々あり、2 年にわたり行政をはじめとし、あらゆる関係各所へ幾度となく協力を依頼した。特に健康の保持増進に関係する行政がからむ実習場所の壁は険しく、地域包括ケアシステムの構築を急務とする国の指針や新カリキュラムのガイドラインと、現場の対応の乖離に幾度となく心が折れた。多様な場所で短期間の実習といった形式が初めてであり、これが円滑に実施できるか不安も大きいが、「学生のために」を合言葉に、粘り強く交渉した日々が無駄にならないよう準備していきたい。

テーマ「新入職教員から見た私の職場（学校）～ココめっちゃいいでぇ～」

カテゴリー⑤その他（人材育成）
学校名：パナソニック健康保険組合立　松下看護専門学校
所在地：大阪府守口市早苗町７番１０号
課程：３年課程　１学年定員数　４０名　就業年限：３年

２０２２年４月に３名の新任教員が入職しました。私たちの学校は、「意志ある学び」を大切に、「自分が自分を成長させる人になる！」ことを大切に、教育活動を行っています。新任教員から「これは学生だけでなく、教員に対しても行われている！」「教員が成長していける環境が整っている！」と声があがりました。そこで、今回は新任教員から見た学校自慢をさせていただくことで、当校の人材育成のリアルさをお伝えできると考えました。できるだけ、感じたことをそのまま表現し、生の声を皆様にお届けできるように下記の画像で発表させていただきます。